



先端産業における利益率という新しい企業基準

令和7年5月11日

黒田インターナショナル コンサルティング LLC

黒田 毅

グローバル経済における富の集約は、その先端産業への資本の流入とその高い知的生産性における利益基準において新しい世界の資本構造が形成される。

これらは企業における新しい課題であることは理解されなくてはならない。これら基準における企業経営は、その先端システムとともにこれら利益性における企業経営を求められるのである。

これらは既存企業経営基準からの完全な現実の転換が次世代技術への転換とともに存在することを理解されなくてはならない。

これらが新しい資本基準とともにグローバル経済を支えているのである。これらは実体経済と金融経済の合意が新しい現実への転換を有するのである。

またこれら生産活動における資本創出が、先進国の物価基準とともに存在することは世界経済の格差構造がこれら先端産業へのシフトにおいて既存の現実であることを理解する必要がある。

またグローバル経済を決定するのは西洋陣営の資本である事が明確に理解されるものである。

これらは産業基準の転換とシステムが既存の現実として実体経済の構造とスタンダードを今日変化させてしまったのである。

これらは既存現実に対してもはや新しい世界が存在することを意味するのである。

これら現実の転換は、過去を離れ自由主義という現実が生み出す新しい未来の存在を表すものである。

これら新しい現実への参加は新しい自己を求められるのである。